

史跡松江城の石垣修理年次計画について

— 石垣修理における今後の方針 —

埋蔵文化財調査課

1. 石垣の現状と修理の考え方

史跡松江城の石垣については、これまで多くの場所で修理工事が行われ、江戸時代からのオリジナルの石垣を見ることのできる場所が少なくなっています【資料 1】。

基本的には「間詰石による補強」「排水機能の改修」「石垣支障木の伐採」などを行い石垣の現状保存に力を入れていく方向性を考えています。

一方、石垣総合調査により危険度 A と判定された石垣は安全面から年次的に解体修理工事を行っていく必要性も感じている。

2. 危険度判定

H24～29 年度に実施した石垣総合調査により、石垣の危険個所が提示された【資料 2】。

このうち、過去の写真との比較で明らかに変異を確認した「御月見櫓下石垣」については、優先的に H30～R4 年度で解体修理工事を実施。

石垣総合調査は目視による調査だったため、これまで石垣の定点観測を継続して行ってきた結果、A 判定であっても変異が確認できない石垣あり。【第 1 表】

一方、B 判定であるが変異や応急設備の劣化が観察できる石垣も確認できた。

なお、平成 18 年度ごろは修理が必要とされていた「二ノ丸西側虎口周辺(資料 1 - D1)」「東内堀石垣の南面(資料 1 - D2)」「本丸乾櫓階段部分(資料 1 - D3)」は危険個所に入っていない。【第 2 表】

【変異を観測・応急設備の劣化】

①本丸東側腰曲輪石垣(資料 1 - C04)…B 判定

定点観測において変異を確認。トン土嚢及びネットで応急措置。

②本丸北門東側石垣(資料 1 - B30)…B 判定

丸太材で応急措置がしてあるが、劣化。

3. 石垣修理の優先順位

史跡松江城石垣総合調査から 10 年以上が経過した石垣もあり、カルテのリバイスも必要となってきた。危険度合いの判定には石垣の定点観測が有効と考えており、今後も観測を続けていく必要があるか。

定点観測で変異を確認した本丸東側腰曲輪石垣(資料 1 - C04)の優先順位は高い。また、本丸北門東側石垣(資料 1 - B30)も何らかの応急措置が必要→解体修理が望ましい。

第 1 表 危険度 A の石垣と現時点で解体修理を予定している三之丸石垣

番号	判定	名称	概 要
B14・15	A	武具櫓北側	変異ナシ
B42～44	A	鉄砲櫓下	変異ナシ
B55・56	A	弓櫓下	変異ナシ ネットで応急処置中。
J01～05・ 14	B	三之丸石垣	未調査 立ち入り制限により人的な影響を防ぐことも可能。

第 2 表 平成 18 年頃に修理を予定していた石垣

番号	判定	名称	概 要
D1	－	西側虎口	D 以下
D2	－	東内堀	D 以下 石材の抜け落ちや天端の不揃い。本来の姿に戻すことが望ましい。
D3	－	乾櫓	D 以下 抜け落ちた石垣部分に土嚢が入れてある状況。本来の姿に戻すことが望ましい。